２１世紀の日本のかたち
--- 個体と群体の信頼関係の再構築をめざして ---

戸 沼 幸 市
（財団法人日本開発構想研究所 理事長）

１．マスクメロンの地球

現在、地球には発達した交通網の上に瞬時に作動する濃密な情報網がかぶさり、これに経済の網が重なってマスクメロンのようです。グローバル化、地球のこの網状体化は世紀をまたいで今世紀 100 年、虚実を混ぜて進行することになるでしょう。

２．人工系ネット社会の日本

21 世紀初頭、日本の社会は世界のネットワークに連動して急速にネットワーク化しつつあります。産業構造も農（漁）業から工業型さらに情報型へ、大転換の様相をみせています。現在の状況は在来の産業と新しい情報産業が並行交差している図であり、これを下部構造として、日本の社会のあらゆる領域、組織はデジタルネットワーク化し、ピラミッドから網状に転換しつつあります。

しかし、現在出現しつつあるネットワーク社会の先行きは必ずしも楽観的なものではありません。最近、日常化する犯罪の多くは、短絡するネットワークによって引き起こされています。これまでの基本的な生活のディフェンスの領域が解体し、代わるべきセーフティネットを欠いたままピラミッド型社会がネットワーク型社会に大きく移行しはじめています。

これまで日本人の生活を支えてきた産業、経済システムが大転換し、市民や国民の生活を支える枠組みとして地方自治体や国家も、革新的な組み立て直しを迫られています。

３．人口減少時代

2000 年１億 2700 万人であった人口が、2006 年をピークに減少し、2025 年１億 2000 万人、2050 年１億人、今世紀末には 7000 万人を割り込むという予測が国の統計として示されています。この減少する人口現象の実相として、非婚化、少子化、高齢化があり、単身世帯が増えております。人口現象として拡大志向から縮み志向に転換しつつある事態をどの様に受け止めるか。21 世紀の日本のかたちを考える上での基本命題です。

急減少か緩減少か、日本における外国人居住をどう考えるか、人口減少の地域的差にどう対処するか、グローバル化、ネットワーク化に向かっている社会として、これをどの様に受け止めるかが問われています。

４．生命の網・個体と群体の信頼関係の再構築

人間の社会的枠組みは、一生の劇を演ずる個体がその集合である群体の中で信頼をもって結ばれ、群体を安全に、安定的に、あるいは活力あるかたちで維持しようとして生まれたものです。家族、地域社会、国、地球地域といった固有の空間と組織をもつ様々なレベルのコミュニティの枠組みは、時代の中で、個体と群体との特有の関係を示してきました。

現在、群体は国家も含め、様々な不信感を内包し、その存在形式が大きく問われております。地球温暖化問題など人類と地球という命題も日常的に身近なものになっています。人間居住のあらゆるレベルにおいて、自然の中に一定の位置を占める生命体としての人間のあり様を根本的に検討し、生命の網、個体と群体の信頼関係の再構築が求められている時代だと思います。

単なる交通や情報の人工的なネットワークに人間相互がぶつ切れに結ばれているというものではなく、人間の生命の環、地球の生命の環にも思いを巡らし、生命の網の目社会を育てるこれからのプロセスにこそ２１世紀の日本のかたちがあると考えます。

（財）日本開発構想研究所は、シンク・タンクとして30年を越す社会貢献の実績を持っており、変革期の日本において一定の時代認識を持ち、21世紀の日本のかたちづくりに微力を尽くしていきます。